

緊急開催！【JUASラボ】東京2020大会で想定されるリスクとサイバーセキュリティ (4719010)

開幕まで1年をきった東京オリンピック・パラリンピック競技大会は、大きな経済効果が期待される一方で、様々な影響も懸念されています。こうした中、各企業がどのような影響を考え、どう対策しようとしているのか、過去の大会の例も踏まえ、お話しします。

開催日時	2019年8月19日(金) 14:00~17:30
スピーカー	共催事務局（契約管理、BPO、コンプライアンス、人事労務管理、人材育成、経営管理）・セキュリティシステム部長 石井 氏
講師	石井 氏 <small>（元）ニュートン・コンサルティング株式会社、コンサルティング事業部、コンサルティング 実務担当はクラウドセキュリティプロフェッショナルとして担当経験が、大学卒業後、大手自動車販売会社向け基幹システムのIT業務に従事、サポートしていた基幹システムに大規模なサイバー攻撃があり、サイバーセキュリティ分野の必要性を強く認識し、現職に携わる。現職ではサイバー攻撃の被害など、サイバーセキュリティに関する講演の他、重要インフラを中心としたサイバー攻撃に関する調査や、民間・官公庁におけるサイバー攻撃シナリオの設計・運営に携わっている。また、旅行して国内ではCERT/Computer Security Incident Response Team</small>
お値段	JUAS 全席171,100円（税別） 一般11,000円（1名様あたり、消費税込み、テキスト込み）
会場	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会（日本情報検定171号ビル2階）
開催形式	講義、グループ演習
定員	30名
参加ポイント	お申し込みは171号協会のポイント対象のセミナーではありません。

主な内容

東京オリンピック・パラリンピック競技大会（東京2020大会）の開幕まで、いよいよ1年を切りました。

東京2020大会ではオリンピックが開幕する2020年7月24日から、パラリンピックが閉幕する9月6日までの期間に、延べ1010万人、1日あたり最大で92万人の来場が予想され、大きな経済効果が期待される一方で、主要道路や船舶の運航にも様々な交通制限がかかり、従業員の移動や宿泊、物流、などにマイナスの影響が出ることも懸念されています。

さらに、過去の大会でも大きな課題となっているテロやサイバー攻撃、さらには自然災害などの発生も考えられます。

こうした中、各企業では、BCPや従業員の安全対策、あるいは企業価値といった観点から、東京2020大会に対してどのような影響を考え、どう対策しようとしているのかを、英国の危機管理コンサルティング会社であるニュートン・コンサルティングの石井氏にお話を伺います。